

事業評価シート【新規事業-1】

事業名	道の駅等都市交流拠点設置事業			基本計画	章	4	総合戦略	基本目標	
事業コード					節	1		施策の方向	
課係名	土木建設課道路計画係	内線			項	1		施策	
担当者氏名		職名			細項目	3		整理番号	

事業概要 首都圏中央連絡自動車道(圏央道)を有効活用するために、インターチェンジ周辺に「道の駅」を設置し、地域振興の拠点施設として地域の活性化を図る。

現在の課題や市民要望など 圏央道が木更津東ICから松尾横芝IC間まで開通したことに伴い利便性が向上し、交通量が年々増加しております。更に松尾横芝ICから大栄JCTについては、平成36年度の開通が発表されました。これにより交通環境が大きく変化することが考えられ、交流人口の増加が期待できることから「茂原を通過点にさせないため」の対応が求められております。また、市民より地域活性化に向けた設置要望の動きが見られる。

事業目的

- ① インターチェンジ周辺に拠点施設を設ける
- ② 交通量増加に伴う休憩施設や情報発信機能の充実
- ③ 防災機能の充実
- ④

個別取組

- ① 農山物直売所等の施設を設ける
- ② 駐車場、トイレ、交通情報
- ③ 非常用トイレ等の設置
- ④

事業による改善・変更点

- ① インターチェンジ周辺に拠点施設の設置
- ②
- ③
- ④

事業対象 個人・世帯 団体(民間) 団体(公共) 内部管理 その他 ()

内容 ① 市民 ② 道路利用者
③ ④

業務形態 全部委託 一部委託 直営 負担金・交付金 その他 ()

内容 ① 指定管理者による業務委託 ②
③ ④

支出根拠 有 無 法令要綱等名称 ① 地方創生推進交付金 ② 社会資本整備総合交付金
③ ④

事業継続 単年度 複数年度:無期 後年度負担 有 無
 複数年度:有期[始期 ~ 終期] 内容

事業費の積算	年度	事業内容	事業費		事務スケジュール	年月		内容
			国	県		市	内容	
30年度	道の駅等都市交流拠点整備基本構想策定業務委託(コンセプト、施設規模、設置場所の検討、管理・運営形態の検討)	事業費	9,720,000		別紙のとおり			
		国						
		市						
31年度	道の駅等都市交流拠点整備基本設計業務委託	事業費	11,319,000					
		国						
		市						
32年度	道の駅等都市交流拠点整備実施設計業務委託	事業費	30,769,200					
		国						
		市						
		一般財源	30,769,200					

経費節減効果 有 無 節減効果の内容

主要指標	指標の種類		計算方法	目標(推計)値		
	名称			30年度	31年度	32年度
活動指標	①					
	②					
成果指標	①					
	②					

事業評価シート【新規事業-2】

項目別評価	1. 実施主体・目的の妥当性		<ul style="list-style-type: none"> ・自治体が関与すべき事業か。民間で実施できないか。 ・総合計画における目的に合致するか。課題解決に結びつくのか。
	評価		◎評価理由(上記の観点により記入してください)
	A	A. 妥当である B. 改善する余地がある C. 妥当ではない	本市の都市計画マスタープランにもインターチェンジ周辺地区のまちづくりの基本方針により「インターチェンジ利用者と地域住民が交流する施設機能の整備」として位置づけられています。
	2. 事業の有効性		<ul style="list-style-type: none"> ・意図した成果は確実に得られるか。 ・類似の目的を持つ事業はないか。
	評価		◎評価理由(上記の観点により記入してください)
	A	A. 有効である B. 改善の余地がある C. 有効ではない	圏央道沿線には、インターチェンジ周辺に休憩施設等がない状況である。また圏央道の交通量は年々増えている。現在、国ではETC2.0に限り、高速道路を降りて道の駅立ち寄り後、一定時間内に限り、高速道路料金据え置き制度がある。これにより道の駅を設置することで、道路利用者への休憩施設や市民への地域交流できる施設を目指す。
	3. 事業の効率性		<ul style="list-style-type: none"> ・成果を維持したまま費用を削減する余地はあるのか。 ・将来的なコストの増加・増大の要因はあるか。
	評価		◎評価理由(上記の観点により記入してください)
	A	A. 効率的である B. 改善の余地がある C. 効率的ではない	施設の建設にあたっては、「地方創生推進交付金」及び「社会資本整備総合交付金」を活用することで、市の負担を抑えることができる。
	4. 緊急性		<ul style="list-style-type: none"> ・今実施しなければならない理由。 ・実施しない場合の問題点。
	評価		◎評価理由(上記の観点により記入してください)
	A	A. すぐに実施する必要有 B. 2~3年後に実施する必要有 C. すぐに実施する必要はない	圏央道の松尾横芝ICから大栄JCTについては、平成36年度の開通が発表されました。これにより交通環境が大きく変化することが考えられます。本事業については、5~7年の期間を要するため、圏央道の千葉県区間全線開通に間に合わないことが考えられる。また、他自治体で先に設置された場合に効果が薄れてしまう。
5. 市民要望・公平性		<ul style="list-style-type: none"> ・どういう市民要望があるのか。 ・受益者負担は適正か。 ・公平性の点から受益の偏り(特定の地域や個人等)はないか。 	
評価		◎評価理由(上記の観点により記入してください)	
A	A. 多くの市民要望有 B. 一部地域・団体等の要望有 C. 要望はない	交通環境が変化することにより、交流人口の増加が期待できることから、「茂原を通過点にさせないため」インターチェンジ周辺の活性化を図り、市内外の様々な人が交流できる施設整備を目指す。	
6. 同規模他市・周辺市町村の状況		<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの自治体で実施、同規模以上の自治体は実施、ほとんど実施していないが先進的な取り組みであるなど、具体的に記述 	
<p>近隣の「道の駅」は、睦沢町、長柄町で設置していて、全国でも多数存在しています。また、圏央道沿線の休憩施設は高滝湖PAだけであり、インターチェンジ周辺の道の駅は「木更津うまかつの里」である。圏央道沿線に休憩施設が少ないことから、道の駅を設置することにより市内外の様々な交流できる施設を目指す。</p>			

総合評価	■実施計画における位置づけ、財政状況による実現性	
	評価	◎評価理由
	A	A. 実施 B. 一部実施 C. 実施しない 都市計画マスタープランや総合戦略における「圏央道の利活用と交流人口の誘致促進」に沿うため妥当である。ただし建設場所によっては、「ねぎぼうず」への影響が懸念されるため、十分に検討された。 事業期間が5~7年と長期であり、9月補正予算で実施する必然性が薄いように思われる。また、施設の維持管理に係る経費も含めた中で判断すべきである。
	■政策調整会議による評価	
	評価	◎評価理由
C	A. 実施 B. 一部実施 C. 実施しない 基本構想の策定を委託しても、その検討結果によっては建設を断念し、投じた事業費が無駄になる恐れがあることから、事業を実施しないものとする。	
■庁議による方針		
評価	具体的な方向性	
A	A. 実施 B. 一部実施 C. 実施しない 高滝湖PAから千葉・茨城両県境までの区間において、圏央道に休憩施設設置の予定がなく、また、千葉県区間全線開通に伴い、利用者の増加が見込めることから、建設を前提として基本構想の策定を行うこととする。	